

小学校第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

期 日 平成23年7月13日(水) 第5校時
場 所 錦町立一武小学校 5年1組教室
指導者 教諭 吉田慎也

1 単元名

安全な米作り～アイガモ農法米作りを体験しよう～

2 単元について

(1) 単元観

本校の総合的な学習の時間では、地域や社会、自然とかかわり、主体的、協同的に問題を解決し、探究する力を育てることで、自己の生き方を考え、ふるさとに対する親しみと愛着を高めることを目標としている。

本校は周囲を田畑に囲まれ、農業が盛んな地域である。しかし、食生活や時代の移り変わりの中で、家庭での米の消費量は減り、地域で作られる米との関わりも少なくなっている。

そこで、本校5年生では、「食と環境」というテーマのもと、毎年、総合的な学習の時間に「米作り」に取り組んでいる。

今年度は、米作りを始める前に、普段口にしていない食物が栽培、収穫、輸送される様子を映像で視聴することで、本校における米作りの方向性について考えるようにした。児童はポストハーベストされている小麦や野菜の様子から、安全でおいしい米を作ることを活動の目標として考え、安全でおいしい米を作るためには、どのような農法がいいのかについて調べ、その結果、アイガモを使った無農薬での米作りに取り組むことにした。

アイガモ農法に取り組むことで、米作りとともに、アイガモ飼育等の体験から、食の安全や命の尊さ、環境保全の取組などの課題を発見したり、主体的に情報を収集、整理・分析したり、まとめ表現したりするなど探究的な活動の展開が期待できる。

また、地域にアイガモ農法に取り組まれている農家があり、継続的に専門的な指導助言を受けることができる環境がある。こうしたことから、米作りにおける地域の専門家との関わりを通して、ふるさとに対する親しみと愛着とともに、地域の一員としての自覚を持つことが期待できる。

さらに、活動の過程において、アイガモ農法に関する情報の収集や情報の発信を行うことで、本校の総合的な学習の時間における育てたい資質や能力の育成とともに、必然性のある情報モラルの育成など、児童の情報活用能力の育成が期待できると考える。

(2) 系統観

3年生 「一武っ子探検隊」	4年生 「一武っ子環境調査隊」	5年生 「食と環境」	6年生 「現在・過去・未来」
<p>■ 錦町のじまんを探そう ■ 錦町のじまんカルタを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特産物の調査 ・ 校区で働く人調べ ・ 校区の史跡調べ 	<p>■ 一武っ子環境調査隊 ■ 広げよう！わたしたちにできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツクシイバラ見学 ・ 水性生物による水質調査 ・ マイバッグ作り ・ ゴミ環境ポスター ・ ユニバーサルデザイン 	<p>■ アイガモ農法米作りを体験しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイガモの孵化・世話 ・ 田おこし ・ しろかき・田植え ・ 稲刈り ・ 脱穀 ・ アイガモの行方 ・ しめ縄作り ・ 餅つき 	<p>■ 知りたい、聞きたい、錦町！ ■ くらんど太鼓を極めよう！ ■ 一武小独自の和太鼓を創り出そう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 錦町の特産物 ・ 歴史、史跡 ・ 丸目蔵人 ・ 自然・産業調べ ・ 錦町ガイドブック作成 ・ くらんど太鼓

(3) 児童観

- 本学級は男子 11 人，女子 12 人の計 23 人である。明るく活発であり，学習に対して意欲的に取り組む児童が多い。全員が総合的な学習の時間を楽しいと感じている。また，これまでの体験から，校区や地域を調べることにについて，78%の児童が楽しいと感じている。
- 学校の敷地内に田があり，米作り体験での活動においては，毎日の観察，記録等が十分に行える環境にある。
- 他の教科等の学習においてもグループ学習を行い，意見交換をしながら問題を解決するという活動を取り入れており，友達と協力して活動することについては，全員が楽しいと感じている。
- 本学級の児童は，これまでの各教科や総合的な学習の時間において，壁新聞やポスター，パンフレットの作成，実物投影機を使っての発表等を経験している。しかし，学習したことをまとめたり，伝える相手によって発信の方法を考えたりすることについては，約半数の児童が，自信がないと感じている。学習内容をまとめ，伝える相手に合った発信の方法を選択するといった能力の育成が必要である。
- 各教科等でのインターネットを活用した調べ学習やワープロ等での資料作成などには，多くの児童が意欲的に取り組むことができる。しかし，ローマ字入力などのスキルについては習熟に差があり，各自，昼休み等の機会にタイピング練習ソフト等での習熟を図っている。

(4) 指導観

- 単元の導入で，小麦や野菜等の栽培，収穫，輸送の様子を映像を視聴することで，自分たちの米作りの方向性について考えられるようにする。
- 校区でアイガモ農法をされている方を指導者として招くことで，専門的な技術指導を頂く。
- 他者と協同して課題解決に取り組む場面を設定することで，多様な視点から，考えを深めることができるようにする。
- 毎時間，活動のめあてを設定し，活動後に振り返りを行うことで，主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 活動を通して体験したことを発信する際には，誰に向けて，何のために伝えるのかといった相手意識や目的意識をもたせることで，主体的に活動に取り組むことができるようにする。
- 情報を発信する際に，発信方法のメリットやデメリットに気づかせ，伝える相手に合った発信の方法を選択することができるようにする。
- デジタルカメラや大型ディスプレイ等の ICT 機器を活用することで，児童の主体的な活動を促進できるようにする。
- 児童の活動を保護者のみならず地域の方々伝えるために，学校便りやブログ等で積極的に情報を発信していくことで，理解と協力が得ることができるようにする。

Cプロジェクト情報活用能力の育成の視点から

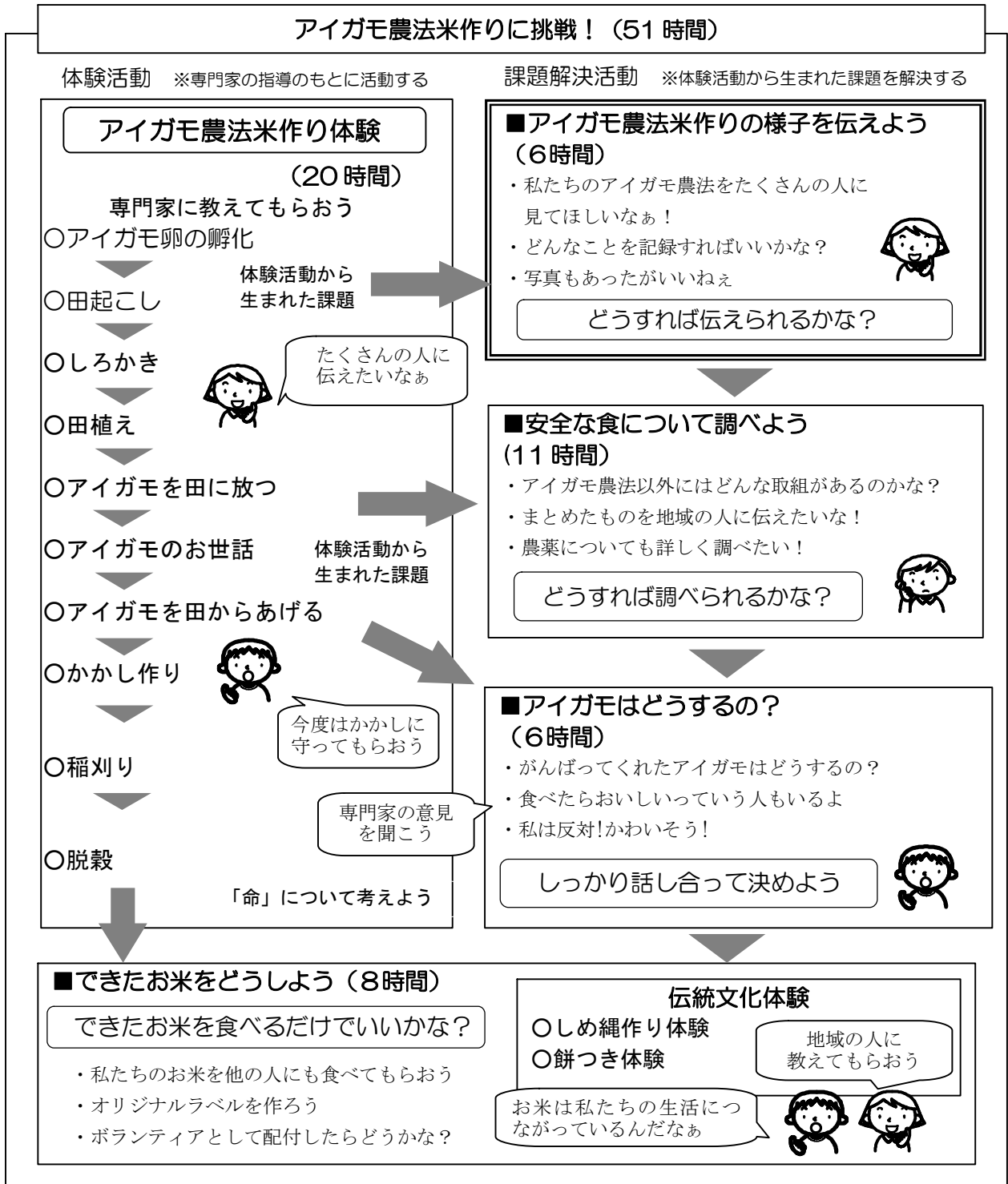
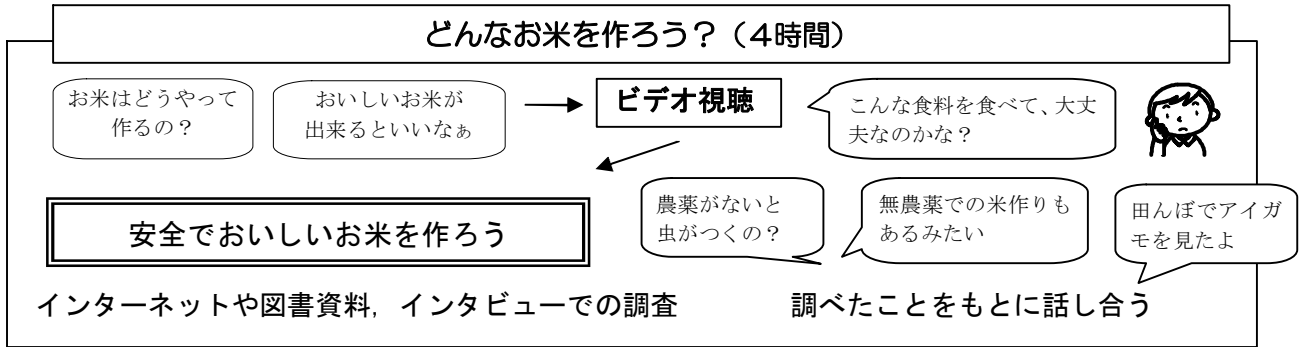
総合的な学習の時間では，課題を解決するために，情報の収集や発信の場面でインターネット等の ICT を活用する事例は多い。こうしたことから，情報活用の実践力とともに，情報モラルを中心とした情報社会へ参画する態度の育成は，総合的な学習の時間にける活動の充実にとって，特に重要となる。

しかし，そうした情報活用能力の育成の場面を探究の過程に明確に位置付けている事例は少なく，単なる調べ学習やスキルの習得に終始している場合が多い。総合的な学習の時間における探究活動の過程において，具体的な情報活用場面から育成できる情報活用能力を想定することは，総合的な学習の時間における情報活用能力の育成にとって非常に有効であると考えられる。

そこで，本単元において，総合的な学習の時間における探究の過程に情報活用場面を位置付け，具体的な実践を通して，総合的な学習の時間で育てようとする資質や能力とともに，児童の情報活用能力の向上を目指す。

具体的には，アイガモ農法での米作りの様子を伝えるために，各種メディアの特性を調べ，発信の目的と対象に応じて適切な発信方法を考える活動を行い，情報を適切に活用する能力の育成を目指す。また，探究の過程において，活動の流れに沿った，必然性のある情報モラル学習の展開を行うことで，児童の情報モラルの育成を目指す。

3 単元の構想 (55 時間)



4 単元の目標と「アイガモ農法米作りの様子を伝えよう」における評価規準

単元の目標	「米」が自分たちの暮らしの中に密接に関わっていることに気づき、先人の自然環境を生かした知恵や思いに共感することができる。
課題発見力	①情報を伝える相手と伝える方法を考えている。 ②継続的にニュースを発信する計画を立てている。
情報収集力	①ニュースを作成するための必要な情報を収集している。 ②収集した情報をニュース作成のために整理・分析している。
表現力	①整理・分析した情報をもとに、ニュースを作成している。
自己発見力	①情報発信方法のメリットから、伝えたい相手への発信方法を決めている。 ②活動を振り返り、次の活動に生かそうとしている。
かかわる力	①グループのメンバーと協同して活動している。

5 指導・評価の計画（「アイガモ農法米作りの様子を伝えよう」における計画）
（6時間取扱い 本時 2/6）

次	時	学習活動	指導上の留意点 ※Cプロジェクトの視点	評価基準（基準B）（評価方法）
1	1	○アイガモ農法米作り活動の発信について考える。 (1) だれに伝えるのか考える。 (2) 伝える方法を考える。	・発信することの意義について考えることで、発信することの目的を持つことができるようにする。 ※発信方法の特徴を考えさせることで、それぞれの発信方法の特性に気付くようにする。	課題発見力①（観察・学習シート） 情報を伝える相手と伝える方法を考えている。 情報収集力①（観察・学習シート） ニュースを作成するための必要な情報を収集している。
2	2 【本時】	○各自が発信したいと考える発信対象ごとにグループを作り、発信の方法を決める。	※それぞれの発信方法の特性から考えさせることで、発信対象に適した発信方法を選択できるようにする。	自己発見力①（観察・学習シート） 情報発信方法のメリットから、伝えたい相手への発信方法を決めている。
3	3 ・ 4	○発信の際に気をつけることについて考える。 (1) 文字での伝達の際、誤解の生じる危険。 (2) 肖像権、著作権。	・問題発生場面のビデオクリップを視聴することで、問題発生状況を確実に理解できるようにする。	かかわる力①（観察） グループのメンバーと協同して活動している。
4	5	○発信対象に適した方法でニュースを作成する。	・発信方法の特性と留意点を再確認することで、それらに気をつけてニュースを作成することができるようにする。 ※文字伝達の際の留意点や肖像権、著作権等の前時の学習を想起させることで、発信対象に適したニュースが作成できるようにする。	情報収集力②（観察・学習シート） 収集した情報をニュース作成のために整理・分析している。 表現力①（観察・学習シート） 整理・分析した情報をもとに、ニュースを作成している。
5	6	○作成したニュースを各自の方法で発信する。 (1) 今後の発信計画を立てる。 (2) 活動を振り返る。	・発信回数や発信時期など具体的に計画を立案することで、継続的な活動につながるようにする。	課題発見力②（観察・学習シート） 継続的にニュースを発信する計画を立てている。 自己発見力②（観察・学習シート） 活動を振り返り、次の活動に生かそうとしている。

6 本時の学習

(1) 目標

アイガモ農法米作りの様子を伝えるための情報発信方法を決めることができる。

(2) 評価基準 自己発見力①（観察・学習シート）

（基準B）情報発信方法のメリットから、伝えたい相手への発信方法を決めている。

（基準A）情報発信方法のメリット、デメリット双方から、伝えたい相手への発信方法を決めている。

(3) 展開

過程	学習活動 【学習形態】	主な発問・指示（○）	教師の留意点及び評価 ※Cプロジェクトの視点	備考
導入 5分	1 本時のめあてをつかむ。【一斉】 ・情報発信方法の特性を確認する。	○伝えたい相手に確実に伝えるための発信方法を決めよう！ ○発信方法の特性を確認しましょう。	○伝えたい相手へ伝える目的を確認することで、本時のめあてへと導く。 ○前時に作成した情報発信方法一覧図をもとに、それぞれの発信方法の特性を確認させることで、発信方法の特性を確認できるようにする。	情報発信方法一覧図
展開 30分	2 グループごとに、各自が考えた方法を出し合い、一番伝わる発信方法を決める。【グループ】 3 グループで検討したことを発表し、それぞれの方法を全体で検討する。【一斉】	○各自考えた発信の方法をグループで出し合しましょう。 ○情報発信方法一覧図をもとに、伝えたい相手へ一番伝わる発信方法を決めましょう。 ○グループで話し合っ決めて方法とその理由を発表しましょう。	○各自が考えた伝えたい相手が、同じメンバー同士でグループを編成することで、伝えたい相手へ一番伝わる発信の方法を考えられるようにする。 ※情報発信方法一覧図をもとに、それぞれの発信方法の特性を考慮することで、発信方法のメリット、デメリットに気付くようにする。 ※実物投影機等を活用し、グループごとの発信方法と理由を拡大掲示することで、各方法の妥当性を、全体で検討できるようにする。 ※発信方法の特性と、「簡単に・日常的に・確実に」伝えられるかという視点で検討できるようにする。	学習シート 電子黒板 実物投影機
整理 10分	4 本時の学習を振り返る。【個人】 5 本時の活動についてまとめ、次時の予告をする。【一斉】	○今日の学習で気付いたことや感想を、学習シートにまとめましょう。 ○次の授業では、発信する時に気を付けることについて考えていきましょう。	○机間指導をしながら、必要に応じて助言する。 【評価：自己発見力①（観察・学習シート）】 〈B基準に達しない児童への手立て〉 情報発信方法一覧図から、それぞれの発信方法のメリットを読み取って整理できるように支援することで、伝えたい相手への発信方法を決めることができるようにする。 ○数人の児童に気付きや感想を発表する場を設定することで、本時の活動を振り返られるようにする。 ○次時の活動のめあてについて確認することで、見通しをもった活動が展開できるようにする。	学習シート

